

郷土教育推進研究報告書

平成25年度

「郷土日野」指導事例

第9集

日野市立教育センター

郷土教育推進研究委員会

目 次

第9集の発行にあたって

日野市立教育センター 所長 松澤茂久・・・ 1

I 研究の概要

1. 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2. 研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3. 研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
4. 重点課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
5. 研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
6. 研究の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
(1)研究の組織 (2)研究の経過・・・・・・・・	5

II 研究の内容

1. 郷土教材を活用した学習指導実践事例・・・・・・・・	6
(1) 日野の昔話に親しむ～日野周辺の昔話や伝説を通して～（幼稚園 年長）・・・	6
(2) 日野の昔話を知る～高幡不動尊～（幼稚園 年長）・・・	11
(3) 3年の社会科見学～車窓からの説明と社会科新聞～（第3学年 社会）・・・	17
(4) 見よう！知ろう！調べよう！ひの～日野煉瓦～（第3学年 総合）・・・	23
(5) 豊かな自然「カワセミ」（第3学年・道徳）・・・	29
(6) 「探ろう田んぼのパワー」～豊田という地名から～（第5学年 総合）・・・	35
2. 新たに収集・開発した郷土資料・教材・・・・・・・・	41
(1) 日野煉瓦と甲武鉄道・・・・・・・・・・・・・・・・	41
(2) 豊田用水にかかる橋・・・・・・・・・・・・・・・・	45
(3) 蚕糸試験場日野桑園の歴史と教材化・・・・・・・・	47
3. 関係機関との連携・協力の広がり・深まり・・・・・・・・	53
(1) 新選組のふるさと歴史館「市制 50 周年特別展と“どこにでもあるもの”」・・・	53
(2) 郷土資料館「昔の道具とくらし～郷土資料館による出前授業～・・・	57
(3) 中央図書館「郷土教育への『広報ひの』の活用」～地域資料の作成～・・・	61
4. 郷土教育推進のための普及・啓発・・・・・・・・・・・・	65
(1) 地域を知る指導者の育成～日野宿の教材化を通して～・・・	65
①フィールドワーク・・・・・・・・・・・・・・・・	65
②研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	68
・フィールドワークのまとめ・・・・・・・・	69
③平成 25 年度若手教員育成研修会「郷土教育」～日野宿の教材化～・・・	70
(2) 校長講話の役割～郷土を題材とした講話～・・・	75
① 校長講話と郷土・・・・・・・・・・・・・・・・	75
② 校長講話「日野の渡し」・・・・・・・・・・・・	76
③ 校長講話「学校給食」・・・・・・・・・・・・	77
④ 校長講話「開校 140 周年によせて」・・・	78
⑤ 校長講話「潤徳小学校の歴史と未来を託された子供」・・・	79

III 研究のまとめ ～成果と課題～・・・・・・・・・・・・ 80

1. 成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	80
2. 課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	81
◎ 郷土教育推進研究協力者・委員会委員名簿・・・・・・・・	82

第9集の発行にあたって

日野市立教育センター所長 松澤 茂久

私は、昨年4月、加島前所長の後任として着任いたしました。私にとって日野市は、教諭～校長まで、教職生活の大半を過ごした懐かしい市ですが、平成11年度から他市に異動していたので、実に十数年ぶりの勤務です。この間、日野市は様々な面で著しい発展を遂げていましたが、うれしいことに、16年前に私も策定委員会の一員として関わった「教育目標ひのっ子」は、ずっと続いていました。

当時、21世紀にふさわしい新たな教育目標をつくるに当たって、日野の地に代々受け継がれてきた「日野っ子」という言葉を生かそうということになり、平易な文章の中にも普遍性を込めてつくられたのが、「ひらこう世界へ のびようともに つくろう夢を こえよう自分を」の教育目標でした。東京のような都市で、土地の名にそのまま「〇〇っ子」と名付けられている所はめったにありません。「日野っ子」という言葉は、まさに郷土日野を象徴した由緒ある言葉なのです。

さて、「郷土日野」指導事例第9集が発行の運びとなりました。教育センターの郷土教育推進研究委員会（日野第一小学校校長中島和夫委員長）が、平成25年度の研究成果を取りまとめ編集したものです。この研究は、日野の歴史、自然、文化、産業、人物などを教材化することにより、ふるさと日野に誇りと愛着をもった子供を育てようとするもので、10年近く続き、日野教育の大きな特色となっています。

また、25年度の研究も、幼稚園、小・中学校、図書館、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、地域の方々などの参加と協力を得て、日野の地域の力を結集して行いました。

今年度は、日野市制施行50周年、東京府（多摩）移管120周年、学校教育140周年、新選組結成150周年などの節目の年に当たって、周年行事も多く行われ、それらと関連した研究、取り組みも随所に見られました。こうしたことを契機に、子供～大人まで、市民の郷土への関心が深まってくれば幸いです。

第9集を取りまとめるにあたってご尽力、ご協力いただいた皆様方に御礼申しあげます。とりわけ、第1集～第5集までは委員長、第6集～第9集まではセンター事務局員として郷土教育推進研究委員会を中心的に支えて来た小杉博司所員の長年の尽力に対し、深く感謝の意を表したいと思います。

I 研究の概要

1 研究主題

郷土意識を育む指導の在り方
～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～

2 研究主題設定の理由

本研究は、日野市の小・中学校、博物館、図書館、教育委員会、教育センターが連携して推進する9年目の継続研究である。教育基本法、学校教育法、学習指導要領が改正され、教育の目標に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」の文言が加えられた。本市の「教育基本構想」には、この考え方のもと、第2項に「日野市の自然・歴史・文化・産業等、郷土をより親しく学ぶために、郷土資料を編集し、地域の方々や専門家の協力を得た授業の推進」、第7項に「授業の質の向上を図るために、地域の教育資源を活用した授業の実施」が明記されている。郷土教育が、日野市の教育の最重要課題の一つとなっている。即ち、学校教育では、「郷土に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」の育成が日野市の教育課題であり、市民からも大いに期待されているところである。そこで、本委員会では、日野の豊かな自然や歴史的文化的環境を活用した郷土教育を推進し、児童・生徒に日野のよさや特色に気付かせ、郷土を大切にすることを育てることが大切であると考えた。そのため、郷土教育推進研究委員会では、郷土教材の発掘・教材化に努め、指導計画を作成し、授業を実践している。そして、この実践と成果を全市の幼稚園、小・中学校に普及・啓発するため、「郷土日野」指導事例集を作成し、市内全幼稚園・小・中学校、市立博物館・図書館等、関係機関へ配布している。

この趣旨を生かすため、今年度の研究主題を「郷土意識を育む指導の在り方～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～」と設定し、重点課題を3点に絞って推進研究と授業実践に当たることにした。

3 研究の目的

「ふるさと日野に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」を育成するために、学校における郷土教育の在り方を研究する。この研究に基づき、各学校は郷土を活用した様々な教育活動を実践し、次の児童・生徒を育成することが本研究の重要な目的である。

- 郷土の歴史、自然、文化、産業、人を理解し、先人への感謝の心をもった ひのっ子
- 郷土の特色やよさに気付き、継承・発展させたいと願い、行動する ひのっ子
- 郷土の一員としての自覚と誇りをもち、仲間や郷土の人々と協働できる ひのっ子
- 郷土の未来の姿を思い描き、よりよい郷土の実現について思考できる ひのっ子

4 重点課題

今年度の重点課題を郷土教育の普及・啓発とし、具体的な課題3点を設定した。また、本市の重点課題を受け、新たに幼稚園での郷土教育の推進と幼稚園と小学校の連携に取り組むこととした。さらに郷土教材を活用した道德教育の充実を図った。

- ① 郷土教育を推進する指導者（教員）の育成
- ② 幼稚園・図書館・博物館等、関係機関と連携した授業づくり
- ③ 郷土教材の開発と郷土教材・実践事例の電子データ化

（１） 郷土教育を推進する指導者の育成

- ① 夏期郷土教育研修会（市教委共催）を実施し各小中学校の郷土教育推進リーダーを育成する。また、年度末に1年間の研究・実践の成果を発表する。夏期研修会は以下の内容で実施した。
 - ・午前 旧日野宿地区フィールドワーク
 - ・午後 日野第一小学校で実践事例の発表・講義・演習
- ② 郷土教育推進研究委員が各学校・地域で郷土教育のリーダーとなる。
 - ・毎月の委員会で、実践報告・協議を重ね、研究を深める。
 - ・学識経験者、博物館学芸員、図書館司書から情報・資料の提供と指導・助言を受け、郷土教育の教材開発や実践に生かす。各委員が授業力の向上に努める。
- ③ 幼稚園と小学校の連携を深め、幼稚園教諭の郷土教育推進リーダーを育成する。

（２） 幼稚園・博物館・図書館との連携

博物館・図書館が学校と関わる機能・役割として次の3点が考えられる。

- ① 郷土に関する資料や情報が蓄積されている。
- ② 蓄積された資料や情報をもとに小・中学校の授業を支援する。協働授業が実施できる。
- ③ 本市の博物館・図書館は、学校・市民に開かれた機関で、専門的見地から指導・助言・協働ができる。児童・生徒が興味・関心を高め、意欲的学ぶことが出来る。

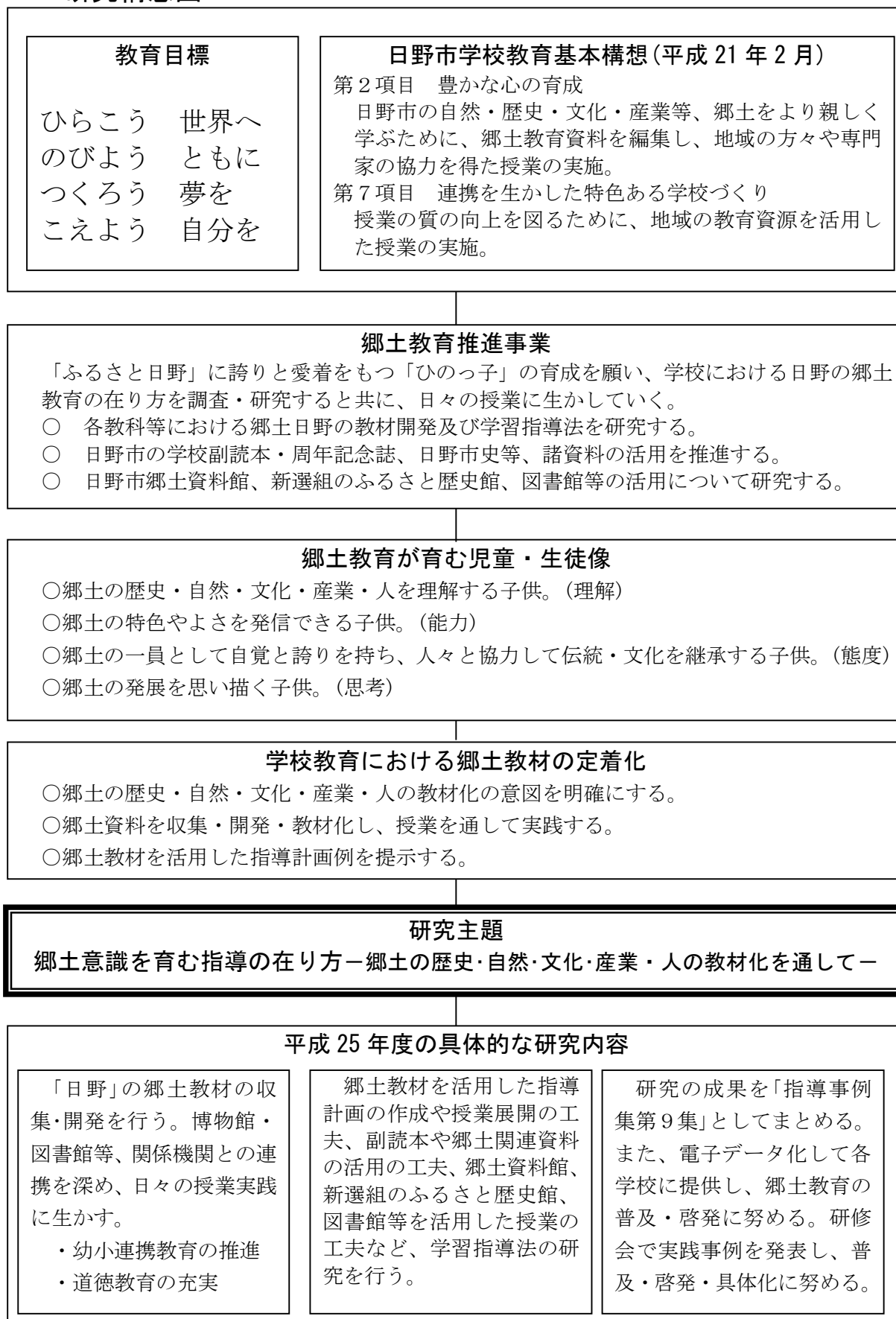
博物館・図書館と連携・協力することにより、効率的でより専門性を発揮した、児童・生徒をひきつける授業が実施できる。今後ますます博物館・図書館等関係機関と、よりよい連携協力関係を築き協働することが大切となってくる。

昨年度から幼稚園で郷土教育に取り組むこととした。幼・小連携を深めながら、幼稚園では、どこまで、どのように実践できるのか、実践を通して検証する。

（３） 郷土教材の電子データ化 教育センターホームページの充実・整備（PDF化）

- ① 郷土日野指導事例 第1集～第9集 全ページが閲覧できる。（図版がカラーで見ることができる）
- ② 郷土日野画像図版資料集 第5集分が完成 写真や図表が、すぐ授業で使える。
- ③ 年間3回発行の「教育センターだより」に、本委員会が発掘・教材化した事例や授業で実践した事例を掲載する。

5 研究構想図



6 研究の進め方

(1) 研究の組織

幼稚園・小学校教員、郷土資料館学芸員、中央図書館司書、新選組のふるさと歴史館学芸員、学識経験者を各委員とし、教育委員会指導主事、教育センター所員を事務局として、16名からなる委員会組織を構成した。月1回の郷土教育推進研究委員会では、教育センターを会場に開発教材・実践事例の提案・協議、研究発表会の検討・準備、情報交換・連絡調整、郷土資料館特別展の見学等を行った。特別展の見学は、郷土資料館学芸員の解説のもと実施した。

(2) 研究の経過

期日・場所	委員会活動の名称	研究活動の内容
5月1日(水) 日野第一小学校	役員会①	・委員会の構成・組織・内容・年間計画・日程等の打ち合わせ
5月30日(木) 教育センター	郷土教育推進研究委員会①	・委員の委嘱・組織づくり・本年度の活動内容の検討・研究活動日程の検討
7月4日(木) 教育センター	郷土教育推進研究委員会②	・郷土教材収集・開発の視点検討(学年、地域) ・フィールドワークのねらい、地域の検討
7月1日(月) 日野宿地区	フィールドワーク 実地踏査①	・市教委「教育課題研修～郷土教育～」と共催事業の事前調査、内容の検討
7月22日(月) 日野宿地区	フィールドワーク 実地踏査②	・フィールドワークコースの確定 ・内容の決定
7月26日(金) 日野宿地区 日野第一小学校	郷土教育推進研究委員会③ 「一日研修会」午前フィールドワーク、午後講義・演習	・フィールドワーク(旧日野宿 宝泉寺、八坂神社、大昌寺、本陣、日野図書館、井上源三郎生家) ・室内研修(事例発表、講義、教材化の演習)
8月28日(水) 教育センター	郷土教育推進研究委員会④	・フィールドワークの反省、まとめ ・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議
11月1日(金) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑤	・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・研究発表会の内容、発表者検討 ・実践事例第9集のプロット案検討
11月8日(金) 日野第一小学校	役員会②	・研究発表会までの日程、内容、方法の検討 ・実践事例第9集プロット案検討、作業日程確認
12月27日(金) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑥	・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・研究発表会と実践事例第9集の内容決定、
1月21日(火) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑦	・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・研究発表会の発表原稿検討
2月20日(木) 教育センター	教育センター研究発表会 郷土教育推進研究委員会⑧	・事前リハーサル、研究発表 ・研究発表会の反省、実践事例第9集作成手順
3月20日(木)		・「郷土日野」指導事例第9集 業者原稿入稿
4月11日(金)		・「郷土日野」指導事例第9集 業者納品
4～5月		・関係機関へ発送・電子データ化(HP公開)

(小杉 博司)

Ⅱ 研究の内容

1. 郷土教材を活用した学習指導実践事例

(1) 日野の昔話に親しむ

～日野周辺の昔話や伝説を通して、自分たちの住んでいる地域への親しみを深める～
(幼稚園 年長児)

1、教材化の意図

第三幼稚園の周りには、新選組にかかわる歴史的な場所や古くから伝わる「昔話」「伝説」が多く残されている。幼児にとって日本の歴史を考える事は難しいが、自分たちが通っている幼稚園周辺地域に伝わる「昔話」や「伝説」に、興味や関心をもたせることで、より自分たちの地域に親しみや愛着をもち郷土愛やこれからの小学校以降の学びへとつながっていくのではないかと考えた。日頃、幼稚園では子ども達に絵本や紙芝居など視覚的なものを用いてそのお話のもつ内容の面白さや想像する面白さを味わわせている。そこで、視覚的教材として『ひのっ子 日野宿発見』の絵本を用いて、《宝泉寺 持ち上げ観音》《八坂神社 筆塚》《とんがらし地蔵》などを取り上げ、第三幼稚園周辺地域の「昔話」や「伝説」を紹介したり、実際に現地に行ったりすることにした。また、その場所にゆかりのある方々からお話を聞くことでより身近に感じ自分たちが住む日野に親しみを感じていけるようになって欲しいと考えた。

2、指導計画

(1) 教育要領との関連

幼稚園教育要領の領域では「健康」「言葉」「人間関係」「環境」「表現」の五つの領域に分かれている。絵本の読み聞かせは、幼稚園教育要領の「言葉」「環境」の領域が占める部分が多いが、その後実際に行ってその場所にゆかりのある方から、お話を伺うことは「環境」「人間関係」の領域が関わってくる。

(2) 活動のねらい

- 自分たちの住んでいる地域には昔から伝わっている「昔話」や「伝説」があることを知る。
- 昔話や伝説を通して、自分の住んでいる所に親しみをもち、地域への興味関心を深める。

(3) 活動の指導計画

- ・日野地区にある《宝泉寺 持ち上げ観音》《八坂神社 筆塚》《とんがらし地蔵》等を見に出かける。

◎視覚的教材

◎教育センター松澤茂久所長 小杉博司所員にご同行いただく。

小杉所員に《宝泉寺 持ち上げ観音》《八坂神社筆塚》

等、地域についてお話をしていただきながら歩く。

また《とんがらし地蔵》では、地域の松本保様より開錠とお地蔵様のいわれと説明。新選組六番隊長井上源三郎生家では、ご子孫の井上雅雄様より“天然理心流”のお話と実演をしていただく。



本時の指導 『日野の昔話の舞台を見に行こう！』

	幼児の活動と内容	援助
導入	○自分達が住んでいる日野の地域にどのような場所があるかを知る。 ・自分の知っている場所を出し合う。 ・その場所に行ったことがあるか、また行った時にどんなことをしたか等話し合う。 ○日野には、いろいろな言い伝えがある場所がある事を知る。 ○ひのっこ『日野宿発見』の《とんがらし地蔵》の絵本を見ながら話を聞く。	○幼稚園の周辺や7月に行った園外保育（福祉センター・日野図書館）の話から、古くからある場所について興味をもたせる。 ○日野の昔から言われている、言い伝えを紹介したり、絵本を見せたりしながら、これから出かける場所の地域探検や「昔話」「伝説」を聞くことを楽しみにできるようにする。
活動	これから見て回る場所の探検カードを見て、日野の昔話に関する場所へ園外保育に出かける。（教育センター 小杉所員にご指導をいただく。） ①に向かう道中にある《馬頭観音》のお話と、昔の人がとても大切にしてきたものであることを聞く。 ・昔の人が旅で通った際や人々の生活の無事を願いお参りをしていたことを聞く。 ②《とんがらし地蔵》を見たり地蔵を現在守り続けている方にお話を聞いたりする。 ・昔の人は、火を扱う生活をしていたので煙で目を傷めた。目の病気になると、とんがらし地蔵の「辛い“とんがらし”で病気を治して下さい。」とお願いした話や、よく見えるように穴の開いた石を供えた話を聞く。 ③《新選組 井上源三郎生家》で、“天然理心流”の実演を見せていただく。 ④《八坂神社 筆塚》を見に行き、由来を聞く。 ・筆塚は、「字が上手になりますように」とお願いをした場所であった。「勉強がよく出来ますように」という願いもするようになった話から、来年小学校へあがる子ども達が筆塚の石碑をなでる。 ⑤《宝泉寺 持ち上げ観音》を見て言い伝えを聞く。 ・教師が「みんなが元気に小学校へ行けますように」と願い、持ち上げる。持ち上げた様子を見て、願いが叶うことを全員で喜び合う。 ⑥《大昌寺 時の鐘》を見たり話を聞いたりする。 ・鐘は昔の時計であった話を聞く。	
まとめ	○今回見てきた場所の探検カードを見て思い出す。 ○地域のお地蔵様や、場所について知った事を話す。 ○家庭でも家族に伝えたいという気持ちをもつ。	・場所や伝えたいことの焦点を絞って投げかけ、思い出しながらねらいにせまる。 ・降園時に、保護者にも地域探検の様子を伝えたり、ホームページでも活動の様子を発信したりして親子で地域を知り、親しめるようにする。

活動時の様子

導 入



人々を水害から守ってくれた、“うなぎ”の話から。
「昔、多摩川の近くに住む人々は、“うなぎ”を食べなかったんです。」

「本当なの？」

これから出かける
《とんがらし地蔵》
には、こんな「昔
話」があるので、紹
介します。



活 動

①《馬頭観音》

「よく見ると、ここに“みざる”“いわざる”“きかざる”の猿がいます。
昔の人を見守ってきた仏様です。こうしてお花を供えて今でも大切にしてい
ます。」



「よく見せて。」
「ここにいるね。」



②《とんがらし地蔵》



「昔は病院がなかったから、お地蔵様に、目の病気を治して下さいとお願いをしていたんだよ。」

「赤い服を着ているね」
「横に穴の開いた石がある。」



③《新選組 井上源三郎生家》



“天然理心流”を、見せていただく。



④《八坂神社 筆塚》

はじめは、「字が上手になりますように。」とお願いしていたことから、だんだん勉強が出来るようにと、お願いをするようになった所。



「勉強が、できるようになりますように。」



⑤《宝泉寺 持ち上げ観音》

「みんなが元気に学校に行けるよう願うね。」



「昔の時計、時間を知らせていた鐘です。遠くまで聞こえていたんですよ。」

⑥《大昌寺 時の鐘》



まとめ



「日野にはいろいろな言い伝えや昔話があります。今日見てきた事を、お家の人にも話してみましょう。」

☆子ども達の感想

- ・いろいろなお話が聞けて楽しかった。
- ・もっと昔話が知りたい。
- ・昔の人が、願いをしていた事がわかった。
- ・八坂神社の筆塚が面白い。もう一度行きたい。
- ・先生が観音様を持ち上げて凄かった。願いを聞いてもらえて嬉しい。

3、成果と課題

(1) 成果

- ・子どもたちが八坂神社に向かった際、「七五三で来た事がある」と身近な様子があった。今回地域探検で新たに《筆塚》のいいつたえを知り、探検後の感想を聞くと「また行ってみたい」と興味を示す言葉が出ていた。その他にも「いろいろな場所に行ってみたり、話を聞いてみたりして楽しかった」という感想が多かったことから、日野の言い伝えや昔話に興味をもつことが出来たと考える。
- ・今回の探検場所に詳しい小杉所員に同行していただいたことは、子ども達にその場所についてこれまで知らなかったことを興味深く伝える事ができた。
- ・本時の活動で、一緒に歩いて下さった、松澤所長、小杉所員と別れる際に、幼児からすすんで「ありがとうございました」と言って見送る場面があった。自分たちの知らないことを優しく教えて下さった先生方や《とんがらし地蔵》《井上源三郎生家》等で出会った方々に対する人への親しみと感謝の気持ちが湧いている様子が感じられた。
- ・今回の地域探検の様子を、クラス懇談会や降園時に話し保護者にも幼稚園周辺の地域について知らせる事ができ、日野の「昔話」や「伝説」について関心もっていただく機会ができた。

(2) 課題

- ・今回の地域探検をきっかけに、「昔話」や「伝説」を通して昔の人の暮らしや願い、歴史に触れることが出来た。今後も継続して日野の歴史に触れる機会を設けて行くことで、自分の地域への愛着や小学校以降への学びにつながっていくと考える。

(富尾 真須子)

（２）日野の昔話を知る ～高幡不動尊～

（幼稚園 年長児）

１、教材化の意図

幼稚園では日頃より絵本の読み聞かせを行っている。絵本の読み聞かせは、そのお話の持つ面白さを広げ、想像する面白さを子どもたちに味わわせている。また、視覚的に訴えることでは、より理解を深めていけるのである。

今回、郷土推進研究委員会に参加して日野市にいくつかの昔話があることを知った。そこで、日野の中でも幼児の生活圏内である高幡不動に焦点を当て、幼稚園の子どもたちにも視覚的教材を用いて日野市の昔話を紹介したり、実際にそのものを見たりまつわる話を聞いたりすることで、興味をもつ機会となればと考えた。

私自身が日野市で育ったにもかかわらず、日野にたくさんの昔話があることを知らなかった。子どもたちが昔話を聞くことで、昔の様子を思い巡らしたり、日野に親しみを感じたりしながら成長していったらいいと思う。

２、指導計画

（１）幼稚園教育要領との関連

幼稚園教育要領の領域では「健康」「言葉」「人間関係」「環境」「表現」の五つの領域に分かれている。遊びや活動の中で、それぞれに関連する内容を経験し学ぶように保育は組み立てられていく。

視覚的教材を用いた活動では「言葉」「環境」の領域が占める部分が大きい。また、実際にその土地を訪れたりそこでお話をうかがったりすることは「環境」「人間関係」の領域が関わってくる。

（２）活動のねらい

- 高幡不動尊にも昔話があることを知り、関心をもって話を聞く。
- 高幡不動尊に行き、実際に見たり話を聞いたりして関心をもつ。



<高幡不動尊の境内を散策>



<お鼻井戸の話しを聞く>

(3) 活動内容

①高幡不動尊へ行ってみよう

*は幼児のつぶやき

	幼児の具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点
事前導入	○高幡不動尊で知っていることを話す。 ・行ったことがあるか、どんなことをしたか、見たかを話す。 *「お正月にお願いで行った。」 *「鐘をつきに行った。」 *「七五三で行った。」 *「駅に行ったことがあるけれどそこには行ったことがない」 ・保護者にお勤めしている方がいることを知り、より身近な場所であることを感じる。 ・紫陽花がたくさん咲いていることを知り期待をもつ。	○高幡不動尊について学級で話をして関心をもたせる。 ・幼児の経験を聞き出していく。初詣や七五三等で訊ねたことがあると思われるので、共通の経験をいかして、どのような場所か確認したり、行ったことのない幼児に高幡不動尊のイメージをもったりできるようにし関心をもたせる。 ・知っている人がいることや、多くの人が訪れること等を具体的に知らせ自分達が行くことを楽しみに出来るようにする。 ・紫陽花がたくさん咲いていて、たくさんの人が楽しみに見に来ていることも知らせ期待をもたせる。
当日の活動	○高幡不動尊に行く。 ・保護者のお坊さんに案内いただき、金剛力士像を見たりお鼻井戸に行き、お話をうかがったりする。 ・境内を散策し、大日堂に鳴り龍があることを知ったり、紫陽花を見たりする。 ・大日堂の前で龍がいることを聞く。 *「どんな龍がいるの？見てみたい！」 *「この中に居るの？」	○高幡不動尊に行く。 ・お坊さんのお話をより具体的に伝えたり、幼児が感じて呟いた発言を受けとめ友達同士でも共感したりできるようにする。 ・大日堂には入らなかったのもので鳴り龍については「ここには龍がいる」と、幼児自身が見たいという気持ちをもったり、イメージしたりできるように話をする。
事後指導	○感想を話す。 ・金剛力士像について *「はじめは怖い顔をしていたからびっくりしたけれど、願うといいと言っていたから願した。」 *「大きかった。」 ・お鼻井戸について *「山から落ちてきたのが面白かった。」 ・鳴り龍について *「どんな龍か見てみたかった。」 *「今度家族と行ってみたい。」	○感想を聞く。 ・家庭にも不動尊で見たものや、その時の子供の様子、その後の感想等を伝え、子どもと話を共有できるきっかけを作ったり、保護者自身にも地域に関心をもったりする機会となるようにする。 <大日堂の前で>

②鳴り龍を見にいこう

	幼児の具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点
事前指導	○高幡不動尊に伝わる昔話があることを知る。 「はたかけの松」（資料１） 高幡不動尊では「源頼義」の話して伝えられているようだが、子どもたちが聞きやすい「機織り」の話で紹介した。 ○鳴り龍についての話をする。 ＊「生きているの？」 「絵なんじゃない？」 ＊「手を鳴らすと鳴くって言っていた。」 ＊「どんな声で鳴くんだろう？」 「ウォーとか？」「ガーッかもよ？」	○昔話を紙芝居で知らせる。 ・いろいろな昔話の紙芝居を読み聞かせをして昔話の面白さを味わわせておく。 ・高幡不動尊へ行ったことを思い出させ、お鼻井戸以外にも昔から伝わる昔話があることを知らせ、関心をもたせる。 ○鳴り龍についての話をする。 ・鳴り龍のことを思い出させ、龍についても昔話があることを伝え、龍のイメージやお話のイメージを膨らませる。 ・実際に高幡不動尊に行き、龍が見られることを楽しみにできるようにする。
当日の活動	○高幡不動尊へ行く。 ・お坊さんにご案内いただき、大日堂の中に入り鳴り龍のお話を聞く。 ・実際に一人一人手をたたき、龍が鳴くのを聞いたりお願をしたりする。 ・大日堂にある龍の絵も見せていただく。 ・お坊さんの龍の説明を聞きながらじっと龍に見いたり、幼児の叩く音では反響しにくくお坊さんに叩いていただいた音を聞いて思わず天井の龍を見上げたりしていた。 ＊叩き終わった後、待っている友達に「ビュンビュンってゴムが鳴っているみたいな音がした！！」「こっちだと聞こえないけど向こうだと聞こえるんだよ！」など、興奮した様子で体験した様子を話す幼児がほとんどだった。 ・はたかけの松を見る。 ＊「おおきいな～。」 ＊「こんなとこにあったんだ。」	○高幡不動尊へ行く。 ・お坊さんから鳴り龍に伝わるお話を聞く。 ・お話に合わせて事前指導で幼児の話していたこととつながったことは幼児と共感していく。 ・疑問に感じていたことや、知ったこと等も言葉に表し改めてみんなで感じたり、意識したりしていけるようにする。 <鳴り龍を一人ずつ手をたたいて体験> <はたかけの松を見る> ・お坊さんには「機織り」の話して事前に幼児に話してあることを伝え、お話をしていた。

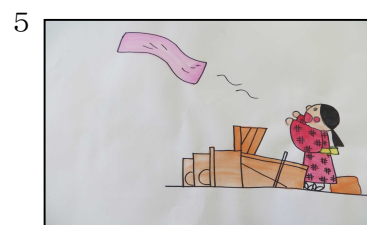
事後指導	○感想を話す ・ 鳴り龍について ＊ 「叩いてみたら本当に鳴いたからびっくりした。」 ＊ 「お坊さんの方が龍がよく鳴いた。」 ＊ 「どうして絵なのに鳴くのか不思議だと思った。」 ＊ 「龍の下に行ったら声がよく聞こえた。」 ＊ 「龍が火事にならないようにしてくれるなんて知らなかった。」 4	○感想を聞く ・ 一人一人が感じたことを話しながら、共通の感想が聞かれた際には、同じことを感じた友達がいたことを知らせ、共有したり、驚いたり不思議に感じた気持ちを受けとめ共有できるようにしていった。 ・ お坊さんがお話してくれたことを思い出していけるように、幼児が覚えていることを聞き出し、再度感じたことやわかったことと話をつなげていくようにした。
------	--	--

③お話を作ろう

	幼児の具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点
事前導入	○紙芝居を見る 「高幡不動のはだか龍」（資料２） お坊さんから聞いたお話と同じ昔話があることを知る。 ・ 龍について、高幡不動尊で聞いたことやわかったことを話していく。 ＊ 「お願いしたことを叶えてくれる。」 ＊ 「火事にならないように守ってくれる。」	○紙芝居の読み聞かせをする。 ・ 実際に鳴り龍を見た感想や聞いたお話を振り返ってから紙芝居を読む。 ・ 「鳴り龍」を見た感想から、龍の特徴を幼児から聞き出す。 ・ 子どもの意見から龍のイメージを共通化していく。
活動	○お話作り ・ イメージしたことを出し合いながらお話作りをしていく。 ～龍の登場場面での話し合いの様子～ ＊ 「水で火を消しに来ることにしたらいいんじゃない？」 ＊ 「口から火がポーッと出るのもいいね」 ＊ 「助けてくれたから最後友だちになるのは？」	○お話作り ・ 高幡不動尊で聞いた龍の特徴を活かしたり新たな特徴を取り入れたりすることで、イメージを膨らましてお話作りの楽しさが感じられるようにする。 ～お話しのあらすじ～ ある日、子ども達は遊び出かける途中で高幡不動尊に寄り、龍に出会い、火や水をあやつる力をもっていることを知ります。その後、山へ遊びに出かけていくのですが、山で子ども達はオバケに捕まり、凍らされたり火の牢屋に入れられたりしてしまいます。困った子供達は龍のことを思い出し、助けに来てもらおうと龍を呼びました。すると龍がやって来て、オバケから子ども達を助けてくれました。子ども達は帰ろうとする龍と友だちになり、その後も仲良く過ごしました。

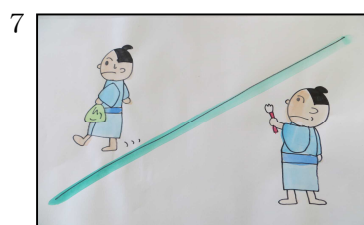
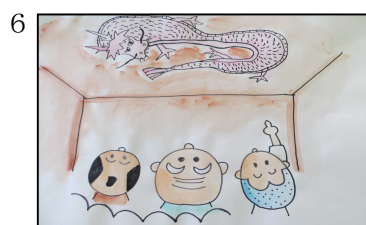
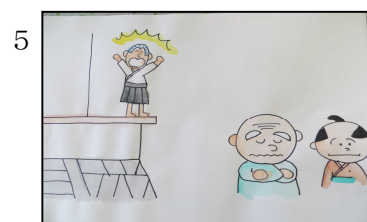
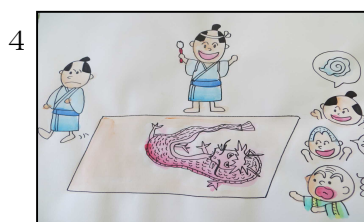
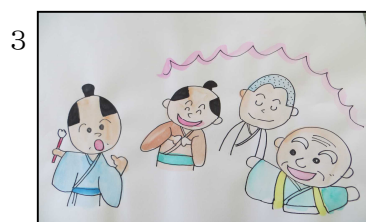
資料 1 「はたかけの松」

読み聞かせの様子



資料 2 「高幡不動のはだか龍」

読み聞かせの様子



紙芝居 ; 自作教材

参考資料: 「日野の歴史と文化 17号 日野の昔話」昭和57年

3、成果と課題

(1) 成果

- 身近な場所について知ることは関心をもつきっかけになりやすく、実際に高幡不動尊に行き、直接見たりお話を聞いたりできたことは、子どもたちに印象的な経験となった。地域に親しみをもったり、まつわるお話を知ったりする楽しさが味わえる機会となった。
- 直接体験は印象的で、そこで感じたことを取り入れながらお話作りにもつなげていくことができ、活動を発展させることが出来た。
- 幼児の経験を保護者に伝えることで、保護者にも地域に関心をもってもらうことができた。

(2) 課題

- 今回は委員に出たことで私自身が幼児と共に学ぶことが出来たが、日野に育ち身近な場所を知っていく機会を、今後も年間計画に取り入れ継続させていくことが大切だと感じた。また、委員以外の教師にも伝え共有し保育に取り入れていければ、日野にまつわる昔話や由来を子どもに伝えていくことが出来る。幼児の経験は保護者に伝えていくので家族で共有することもでき、多くの人が継承していくことができると思う。

※ 高幡山金剛寺での案内・説明は、直井祐浩様、手塚英典様にお願いしました。幼児への対応、ご配慮に心より感謝致します。

(石川 星子)

(3) 3 年の社会科見学一車窓からの説明と社会科新聞の資料―

(第 3 学年 社会科)

3 年生の社会科見学では、バスガイドがつく時とつかない時があります。今回、七生緑小学校ではバスガイドがつかなかったので、1 号車と 2 号車の説明内容を原則的にそろえるため、車窓からの説明案を作成しました。1 学期の学習を踏まえ、また工場の学習をしているので、西平山工業地帯の説明はやや詳しくしました。実施しての留意点は、説明はその場所の少し前から始めないと間に合わなくなることです。

実施月日：平成 25 年 10 月 31 日(木)

見学先：日野市役所、市民の森ふれあいホール、トッパンメディアプリンテック東京

※バスの運転手には予めこのコースをできるだけ走ってほしいと地図を渡して依頼しておきます。

1. 日野市の地形

日野市の地形は大きく「丘陵地、低地、台地」の 3 つに分けられます(簡単な図を用意する)。北の方を流れているのが多摩川、日野市の真ん中を斜めに流れているのが浅川、この 2 つの川の近くは「低地」といって、日野市では一番低いところです。浅川の北(西)は「台地」といってやや高く、上の方がだいたい平らになっています。ここには、日野市役所や日野自動車工場など工場が多くあります。浅川の南(東)は「丘陵地」といって日野市では一番高いところで、上の方でもこぼこしていて坂が多いところです。ここは、多摩動物園があります。また、高幡不動の裏の山が多摩丘陵です。

※坂の上り下りに注意して、地形の違いに気づかせます。また、「今は台地の上を走っているのかな」と質問するのもよいと思います。

(例) ・七生緑小学校(丘陵地)―坂を下る―川崎街道(低地、京王線に沿っている)

・日野バイパス(低地)―坂を上る―市役所周辺(台地)

・市役所周辺(台地)―坂を下る―甲州街道・旧日野宿(低地)

川や用水は「水の郷(さと)日野」を代表する自然環境です。しかし、用水の流れは細いので「ここが日野用水だよ」とその場で児童に指示しないとわかりません。

浅川：新井橋や平山橋を渡る時に、橋の名前と浅川の上を通っていることを伝えます。

2. 交通

その場所に近くなったら、簡単に説明します。

- ・市内の駅名(高幡不動駅、万願寺駅、JR 日野駅、JR 豊田駅、多摩動物公園駅、程久保駅)
- ・道路：川崎街道、甲州街道、中央高速
- ・多摩都市モノレール、JR 中央線、京王線
- ・JR 日野駅とタクシー乗り場・バスターミナル(JR 日野駅から市内外の各地に人を運ぶ)

3. 日野市役所周辺

※日野市役所では、議会の説明(議会事務職員)、各階ごとの説明(学校課職員)をしてくれます。

日野市役所周辺には公共施設が多くあります―市民会館、防災センター、新撰組のふるさと歴史館、中央公園、消防署、(実践女子大学)

・2013 年は 9 月 30 日～11 月 1 日まで市役所 1 階で「緑と清流ポスター展」を実施していました。

なお、NHK学校放送の社会科番組ホームページ小学生3・4年生「知っとく地図帳」第12回に「市役所」をテーマにした番組がありますので、事前や事後に活用できます。

新選組のふるさと歴史館

江戸時代(お侍さんが活躍していた時代)の終わりに、京都で警察のような仕事をしていた人たちを新選組といいます。この中には、日野の人が多くいました。京都に行く前は、日野で天然理心流という剣術の練習をしていました。その人たちが使っていた物や手紙、何をしたのか記録した資料などを集めて展示しているのが、この歴史館です。NHKで新選組の大河ドラマが流されたことから、日本全国から訪れる人が増えています。

4. 甲州街道沿いの日野宿

江戸時代、甲州街道沿いに日野宿(日野駅の近く～日野警察署の手前)が作られ、今でも日野の町の中心になっています。昔は電車も自動車もなかったので、歩いて街道を旅しました。また、手紙や荷物も人や馬で運びました。特に、日野の北側には多摩川があり、橋がなかったので大水の時は渡れませんでした。そこで、旅館や手紙・荷物を取り次ぐ問屋場などのある宿場が置かれ、大名が泊まる本陣も作られました。この本陣は、今では東京都で1つだけ残っている貴重なもので東京都の史跡、日野市の文化財になっています。

今の市役所にあたる問屋場は、日野図書館の所にありました。向いに住んでいた2軒の佐藤家(上佐藤と下佐藤)が、責任者として交代で勤めていました。上佐藤の先祖の佐藤隼人は、今から446年前の1567年に日野用水を作った人です。江戸時代の終わりに生まれた佐藤彦五郎は、自分や村を守るために家(日野本陣)に道場を作り、剣術の稽古に励みました。

日野の町には蔵を活用した店など、昔の様子を伝えるものが多く残っています。また、日野宿本陣、日野図書館、日野宿交流館など昔のものを展示しているミニ博物館もあります。

5. ふれあいホール

※ふれあいホール(市民体育館)では、各部屋が何に使われているのか職員が約1時間説明してくれます。

ここは、低地で日野用水が流れています。ふれあいホールの駐車場の裏は、昔ながらの素堀の用水で、道路沿いは巨石を配した水路になっています。また、この辺りは、昔は一面に田畑が広がっていました。ふれあいホールの場所は、以前は蚕糸試験場でイチョウの並木が最近までありました。スポーツ公園の西の出入り口には1988年12月に建てられた石碑「蚕糸研究ゆかりの碑」があります。

6. 工場

① 日野自動車の本社

日野の名前を会社の名前にして、日本で一番多くトラックを作っている工場です。1日約400台のバスやトラックを作っていて、140カ国に輸出しています。72年前(昭和16年)に作られました。その頃は台地の上は畑が多く人はあまり住んでいなかったのが、広くて平らな土地が買いやすかったといいます。東京ドームが約10個分の広さがあります。また、当時の町長が、日野の町を発展させるために大きな工場を作ってほしいと頼んだそうです。工場にはロボットが約600台あり、人間の代わりに塗装などの危険な仕事をしています。乗用車も作っていて、世界一過酷なモータースポーツ競技といわれるパリダカール・ラリーに参加しています。

② コニカミノルタ

最初は六桜社、その後コニカという名前になった会社で、日本で初めてカラーフィルムを作りました。このフィルムを「さくらフィルム」といったので、会社のある場所を日野市さくら町と名づけています。写真のフィルムを作るには、きれいな水が必要でした。日野は水がきれい地下水がたくさんあったので、75年以上前に日野に来ました。また、その頃は電気代も安かったそうです。レントゲンのフィルムも作っていました。今はプリンター、コピー機、デジタルカメラを作っています。10年前にミノルタというカメラの会社と一緒に、コニカミノルタになりました。今、地上7階の研究をするための建物を作っています。これが完成すると、3,500人の人がここで働くことになります。

③ GE ヘルスケア・ジャパン

横河電機とゼネラル・エレクトリックがお金を出し合って、31年前にできた会社で、1,700人が働いています。手術する時に使う小さいカメラとそれを映すTV、レントゲンの機械、心臓の調子を調べるための心電図をとる機械、赤ちゃんが小さく生まれた時に入れる保育器などの機械、手術する時の麻酔を作っています。

④ 東芝テリー

63年前に東芝という電気の会社から分かれてできた会社で、今は430人が働いています。監視カメラや人が通るとスイッチが入って明かりがつく機械を作っています。

⑤ 帝人ファーマ東京研究所

ジャンパーなどを作るポリエステルなどの繊維を作っていましたが、今は薬などの研究をしています。また、ケガをした時のリハビリの機械や骨を折った時、骨が早く治るように使う超音波の機械などを作っています。

⑥ ファナック

山梨県の山奥に本社がある珍しい会社です。会社の色は黄色で、建物ばかりでなく作業着や会社のバイク、バス、トラック、会社の食堂のテーブルクロスや割り箸の袋の色も黄色です。電気関係の製品を作っていましたが、今は、モーターやレーザーの他に工場で使われるロボットを作っています。

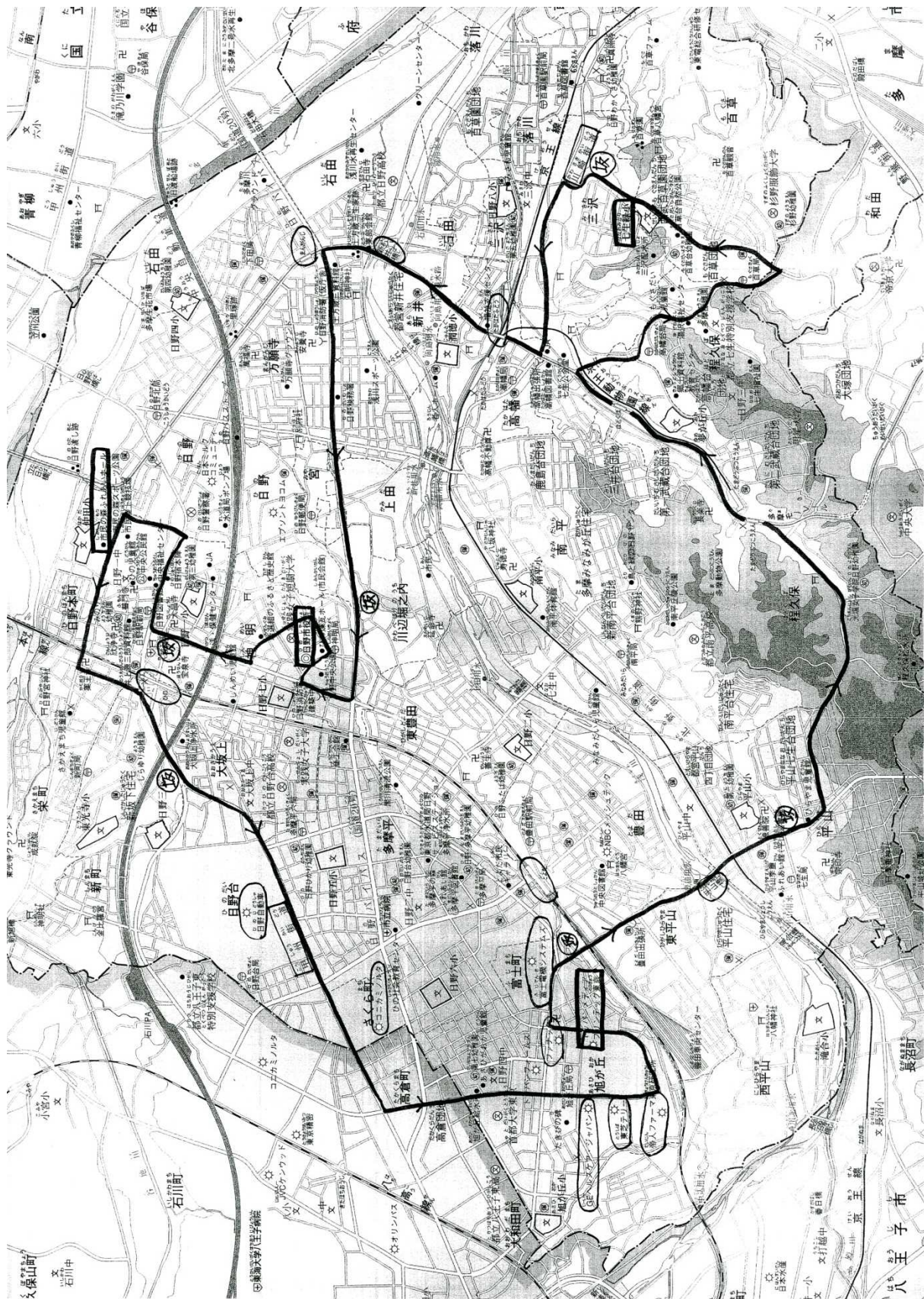
⑥ 富士電機

もともと川崎にありましたが、戦争で爆弾を落とされそうだったので、76年前（昭和18年）に引っ越してきました。その頃は、周りは麦畑で冬に風が強く吹くと目が開けていられない程の土ぼこりだったといえます。工場の名前をとって、ここは日野市富士町といえます。ここからは富士山がよく見えるので富士電機と名前を付けたという人もいますが、古河電機という会社とドイツのジーメンスという会社がお金を出し合って作ったので、その頭文字「ふ」と「じ」を使って富士電気とつけられました。その頃は800人ぐらいが働いていましたが、10年ぐらい前は4,400人と約5倍に増えています。初めは電気でモノを温める電熱器や扇風機、小さいモーターを作っていました。今は太陽電池など電気をつくる機械やコンピューター、ETCといって高速道路を出入りする時にノンストップで料金が払えるシステムを作っています。

7. 日野市郷土資料館

今回は、見学コースには入れませんでしたが、日野市郷土資料館では教室一室を利用して七生丘陵の自然、日野の野鳥、日野の明治・大正・昭和等テーマを決めて企画展を行っています。また、中学年の社会科で活用できる古い道具の見学・説明を行ってくれます。

資料：社会科見学のコース地図



日野市にある工場「トッパンメディアプリンテック東京」

副読本『わたしたちの日野』には、工場見学のまとめとして新聞作りの事例が載っています。しかし、聞いた話を後でわかるようにメモを取れる3年生は少ないです。ですから、見学後の社会科新聞はなかなか書けない子が多くなります。今回は、パワーポイント(副読本や工場から提供して頂いた写真を使用)で見学を振り返り、次の資料を読ませて社会科新聞を書かせました。

1. トッパンメディアプリンテック東京とは

トッパンメディアプリンテックでは、新聞(しんぶん)を印刷(いんさつ)しています。昭和43年、それまで新聞は黒のインクだけで印刷(いんさつ)していましたが、カラー印刷をしようとトッパン印刷と朝日新聞がお金を出しあって会社を作りました。初めは、日野オフセット印刷とっていましたが、平成21年4月に名前をトッパンメディアプリンテック東京にかえました。日野工場で働いている人は約(やく)70人で、建物が広いわりに、働いている人は少ないです。また、70人が1度に働いているわけではなく、昼シフトと夜シフトにわかれています。昼シフトは朝の8時30分～夕方(ゆふ)の5時30分で約40人が、夕刊(ゆうかん)の印刷をします。夜シフトは、夜の7時から朝4時まで約20人が、朝刊(ちょうかん)の印刷をします。このように、真夜中(まよなか)でも印刷の機械を動かしています。また、新聞は休みがほとんどないので、残りの10人は交代で休みをとっています。

2. 新聞に使う紙

新聞の材料は、紙とインクです。紙は、北海道の苫小牧(とまこまい)にある王子製紙(おうじせいし)から送られてきます。ロール紙は重さ1.2トンで、200kgの重さのおすもうさんだと6人分になります。自動車1台の重さと同じくらいです。このロールを転がしてのばすと16kmもあります。JR中央線という八王子駅(えき)から国分寺駅(ぐんぶんじ)ぐらいの長さで、大人がこの紙の上を歩くと4時間かかります。このロールを1日80～100本使います。重いのでロールの出し入れは、人間ではなく機械でします。紙の倉庫(そうこ)には、204本入りますが、いつも2日間分のロールがおいてあります。

3. AGV

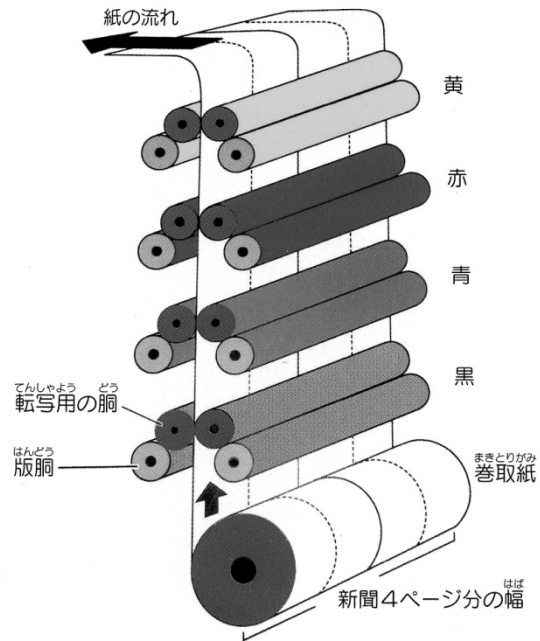
ロールは重いので、AGVというロボットが印刷(いんさつ)する輪転機(りんてんき)まで運(はこ)びます。工場の中は印刷機の動く音がうるさいので、チャイムを鳴らしながら移動(いどう)して、近くの人に音で知らせます。また、使い終わったロールのしんも集めます。AGVは8台あり、ロールを1日80本使うので、1台が10本運ぶことになります。仕事が終わると、自動でもどっていきます。

4. 記事から刷版(さっぱん)を作る

新聞記者(きしゃ)が書いた原稿(げんこう)は、大手町にある新聞の本社(ほんしゃ)に集められます。そして、記事(きじ)をどのページに入れるか決(き)めます。それから、「見出(みだ)し」をつけ1ページごとに記事や写真をならべます。ことばや文字にまちがいがいいか確(た)しかめたと、広告(こうこく)などを入れて完成(かんせい)させます。それを、通信回線(つうしんかいせん)を使って日野工場におくります。日野工場では、レーザー光線(こうせん)をつかってアルミニウム版(ばん)に焼きつけて、刷版(さっぱん)を作ります。この刷版(さっぱん)を輪転機(りんてんき)に取りつけて、インクをつけて印刷(いんさつ)します。使い終わった刷版は、リサイクル回収に出しています。

5. カラー印刷

印刷するのに使うインクは、黒、青、赤、黄の4色です。これをかさねて作ります。はじめに、1枚のカラー写真を4つの色に分解（ぶんかい）します。そして、4つの色版（いろはん）を作ります。この色版を輪転機（りんてんき）に取り付けます。青の色版には青のインク、赤の色版には赤いインクと4つの色をかさねて印刷すると、きれいなカラー印刷ができます。インクは1日、4色で1トン使います。一番多く使うのは黒です。また、冬は赤や緑を多く使い、夏は青を多く使います。このインクはベジタブルオイルインキ(植物油)といって、やしの実(み)や大豆(だいず)の油粕(あぶらかす)など、安全なものを使っています。



6. 高速オフセット輪転機（りんてんき）

高速（こうそく）オフセット輪転機は、裏（うら）と表（おもて）が一度に印刷できます。五階（かい）になっていて、あがるときに1階（かい）で黒、2階で青、3階で赤、4階で黄色の印刷をします。時速（じそく）40kmの速さで1時間に40ページの新聞を9万部印刷します。

5階では印刷（いんさつ）がきちんとできているかカメラでチェックします。そして、5階から4階に下りる時に20枚（まい）の紙を全部（ぜんぶ）かさねます。4階から3階に下りる時に半分に切ります。3階から2階に下りる時にそれを半分におります。朝刊（ちょうかん）は33万部、夕刊（ゆうかん）は16万部印刷（いんさつ）します。

7. 自動荷造（じどうにづくり）システム

印刷（いんさつ）された新聞（しんぶん）は、天じょうのレールにそって次々（つぎつぎ）に運ばれます。そして、数をかぞえて、新聞販売店（はんばいてん）に運ばれます。この荷造（にづくり）も機械でやっています。1分間に40のふくろづめができます。

①カウンタースタッカーでは上から、印刷された新聞がおりてきます。この時に、部数（ぶすう）をかぞえます。

②新聞を送る先の場所やあて名を印刷した紙をのせます。これにはバーコードがついています。

③新聞をビニールぶくろに入れます。

④新聞にひもをかけます。

⑤ジェットコースターのような機械で運びます。この時にバーコードを読み取り、どのトラックの前で下りるか決めます。

⑥朝刊（ちょうかん）は33万部、夕刊（ゆうかん）は16万部印刷（いんさつ）します。朝刊はトラック40台で、東京の西半分と埼玉県（さいたまけん）、山梨県（やまなしけん）、長野県（ながのけん）に運びます。夕刊はトラック20台で、東京の西半分の新聞販売店（はんばいてん）などに運びます。

資料：『トッパンメディアプリンテック東京会社案内』

（小坂 克信）

(4) 見よう！知ろう！調べよう！ひの～日野煉瓦～

(第3学年 総合的な学習の時間)

1. 教材化の意図

本校の3年生児童には、日野宿子ども発見隊事業実行委員会が企画・編集した「ひのっ子日野宿発見」という絵本が全員に配布される。絵本の中には、日野宿（学区周辺）の歴史を感じることでできる文化財の場所やその歴史的な意味について分かりやすく描かれている。また、いくつかの民話や伝説も載っていて、日野市の歴史を親しみやすく学ぶことができる絵本となっている。身近で親しみやすく、絵も多いので、この教材をうまく活用できるような授業を計画したいと考えていた。

そんな折、今年6月に絵本にある文化財を直接学ぶ機会に恵まれた。絵本の中で紹介されている文化財を見学するフィールドワークに参加してみた。実際に歩きながら、様々な話を聞く中で、これまで気がつかなかった日野の文化財の新たな側面を知ることができた。特に、「関東大震災でも壊れなかった」という日野の煉瓦で作られた多摩川の鉄橋が現在でも使われていることに強く感銘を受けた。そして、その鉄橋を支えている煉瓦には、日野に鉄道を通したいという人々の強い願いがあることを知った。

140周年を迎える本校の子どもたちにも、いち早く新たな文化を取り入れた日野人の先見性への気付きを鉄橋のすばらしさを直接見学させることで理解してほしいと考え、本単元を計画した。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

- ・日野煉瓦に関心をもち、意欲的に調べ、日野のすばらしさを見つけようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・日野煉瓦のすばらしさを絵や言葉で表しながら、具体的に考えることができる。(思考・判断・表現)
- ・日野煉瓦を使った橋脚を実際に観察したり、資料を活用したりして、具体的に調べることができる。(技能)
- ・日野煉瓦工場を知り、日野を発展させようとした先人の先見性について理解することができる。(知識・理解)

(2) 単元の指導計画(11時間)

	時	ねらい	学習活動	資料
つかむ (4時間)	1・2	○多摩川の鉄橋に日野煉瓦が使われていることを知り、関心をもつ。	・多摩川の鉄橋の写真を見て、橋脚の長さに気付く。 ・「ひのっ子日野宿発見」の絵本を見たり、多摩川の鉄橋の写真を見たりして、意見を話し合う。	・多摩川の鉄橋の写真 資料①・② ・「ひのっ子日野宿発見」の絵本 資料③
	3	○多摩川の鉄橋が長年に渡って使われ続けたことについて考えることができる。	・「日野煉瓦に関する資料」を読んだり、教師からの話を聞いたりして、多摩川の鉄橋がなぜ現在まで使われ続けてきたのかを考える。	・「郷土日野指導事例集」第2集
	4	○多摩川に鉄橋を通すために、なぜ日野煉瓦が使われたのか考えることができる。	・日野煉瓦を実際に見る。 ・なぜ日野に煉瓦の鉄橋ができたのか考え、話し合う。 日野に鉄道を通すため！！	・日野煉瓦 資料④

	時	ねらい	学習活動	教具
調べる (4時間)	5・6	○日野煉瓦を使った橋脚を実際に観察し、自分の疑問について具体的に調べることができる。	・見学の際の注意事項を確認する。 ・多摩川の鉄橋を実際に見たり、壁を触ってみたりしてみる。 ・ゲストティーチャーの話を聞く。 ・ゲストティーチャーに質問をし、答えていただく。 ・橋脚を見たり、ゲストティーチャーの話を聞いたりして、分かったことなどをまとめる。 ・感想を発表する。	・ゲストティーチャー（日野市教育委員会生涯学習課 清野利明 課長）
	7・8	○自分が調べたい事柄に関して、資料を活用し、具体的に調べることができる。	<日野煉瓦の丈夫さ> ・日野煉瓦の製造過程について知る。 <日野煉瓦の歴史> ・日野に鉄道が敷かれるまでや、日野煉瓦工場の歴史について知る。 <日野煉瓦の使われ方> ・多摩川の鉄橋以外に、どんな場所に日野煉瓦が使われているのか知る。	・日野煉瓦工場とレンガ 資料⑤ ・日野煉瓦のあゆみ 資料⑥ ・甲武鉄道の煉瓦構造物 資料⑦ ・日野駅前の写真
まとめる (3時間)	9 10 11	○日野煉瓦について絵や言葉を使い、表すことができる。 ○日野煉瓦のすばらしさや先人の先見性を理解することができる。	・調べたことを振り返る。 ・実際に見に行ったことやゲストティーチャーから聞いたことを思い起こす。 ・一人一人まとめの新聞づくりをする。 ・クラスで新聞の発表会を行う。 ・単元を終えての感想を書く。	



本校の140周年式典に合わせて、「日野煉瓦130年の歴史」のブースを校内に設けました。

3. 学習の様子



資料①多摩川の鉄橋の写真（約130年前）
（日野市郷土資料館提供）



資料②多摩川の鉄橋の写真（現在）

★つかむを終えて（子どもたちの感想）

- ・約130年間もの長い間鉄橋が使われ続けているなんて、すごい。
- ・日野で作られた煉瓦は昔の人の工夫によってできたのだと思う。
- ・電車が通っても壊れないなんて、どれほど強いのだろうか。
- ・煉瓦だけではなく橋にも何か工夫があるのではないかな。
- ・煉瓦にはいろいろな種類や大きさがあることが分かった。



子どもたちは、**日野の煉瓦の丈夫さ**には気付くことができた。

★つかむを終えて（これから知りたいこと・調べていきたいこと）

- ・なぜ日野の煉瓦で作られた鉄橋は壊れないのか。
- ・鉄橋にはどのくらいの数の煉瓦が使われているのか。
- ・鉄橋はどのように作られているのか知りたい。
- ・鉄橋以外にはどんなところに煉瓦が使われているのか。
- ・煉瓦の色や形の違いは何なのか。
- ・煉瓦にはどのような土が使われているのか。
- ・煉瓦には何という文字が刻まれているのか知りたい。
- ・なぜ短い間で煉瓦工場が閉鎖されてしまったのか。

子どもたちの疑問をもとに、
教師が資料などを用意して、
調べていく。**（問題解決学習）**

資料③「ひのっ子日野宿発見」の絵本
（日野市教育委員会 平成23年）



資料④ 日野煉瓦



日野市教育委員会 生涯
学習課のお力を借りて、煉
瓦を準備しました。

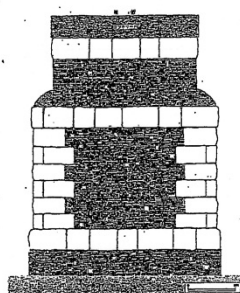
★「調べる」で使った資料

資料⑤ 日野煉瓦工場とレンガ

(日野市教育委員会作成)

塚つかウオーク

～日野煉瓦工場とレンガ～



▲甲武中央線多摩川鉄橋上り線橋脚の模式図



◀日野煉瓦
河野家伝集。普通煉瓦。日野煉
瓦工場の会社印「HBW」が見
られる。この煉瓦は表面の形状
から、契約交渉時の見本として
「プレス成形」された可能性が
ある。(日野市教育委員会所蔵)



◀日野煉瓦
河野家伝集。普通煉瓦。手抜き
成形。平(広い面)に釘頭痕が
ある。釘頭痕とは、煉瓦を固く
焼くにつれて、含水を固定するた
めの洋釘の痕跡である。(日野市
教育委員会所蔵)



◀日野煉瓦
河野正家伝集。普通煉瓦。手
抜き成形。平に粒の痕跡がある。
(日野市教育委員会所蔵)

はじめに

江戸時代の日野宿は、幕府の天領(直轄地)であり、新選組を生み育んだ土地でした。しかし明治維新を経て、日本が近代国家の建設に向けて新しい歩みを始めると、「新選組のふるさと」である日野にも各種の近代産業が芽生え、消長を繰り返しながらも着実な発展を遂げて行きます。

企画コーナー展「シリーズ・日野の近代」は、そうした日野市域の近代化の足跡を、主として産業の側面から通り、日野市の地域特性を明らかにしようとするものです。第一回目は今回は、「日野の近代化と赤煉瓦」と題し、明治期に日野で生産された「日野煉瓦」を主人公に、維新後の日野が辿った道程を検証します。

1

日野の近代産業
「殖産興業・富国強兵」を掲げる明治政府は、近代産業の育成に力を注いだ。

日野市域でも地元の有力者たちによって、明治の初頭から種々の近代産業が登場した。明治16年には「日野銀行」が開業し、明治19年には豊田で「山口ビール」が作られるなどしている。また明治政府が生糸の輸出に力を入れていたため、明治10年頃から養蚕の急激な進展が見られ、日野市域では明治35年の養蚕の収入が、全農業収入の34.3%を占めるまでになっている。

甲武鉄道の建設

JR中央線の前身である甲武鉄道は、明治21年7月に建設が着手された。新宿ー立川間は明治22年4月11日に開業したが、多摩川鉄橋の工事が遅れたため、立川ー八王子間は同年8月11日の開業となった。

甲武鉄道の開業当初、日野宿には駅がなかったが、積極的な誘致運動を行った結果開業5ヶ月後の明治23年1月に日野停車場が開設された。

日野煉瓦の誕生

日野煉瓦工場は日野宿の有力者たちが、甲武鉄道の建設資材としての煉瓦製造を目的に設立した工場である。鉄道建設の1年前にあたる明治20年に煉瓦製造の原土(粘土)の調査が行われ、同年12月に「煉瓦製造所新設認可願」が神奈川県南多摩郡長宛に提出されている。これによると、役員は工業監督員が高木吉造、会計主任が河野清助、支配人が土屋英となっている。また同文書の記載事項から当時煉瓦生産が盛んだった横浜から技術責任者を招いたと推測される。

工場は日野宿の東端(現在の日野警察署の向い)にあった。この工場は甲州街道に面して出荷がしやすく、煉瓦の供給先である立川ー八王子間の鉄道建設現場にも近い、恵まれた立地であった。原料の粘土は工場の南にある蘭沼という湿地から採掘した。この場所は工場に近く、付近の瓦職人を煉瓦職人として採用できるといふ利点もあったと考えられる。

養蚕用の火炉

蚕は気温が下がることで発病の危険性が高くなる。そこで火炉(囲炉裏)を用いて蚕室の温度を一定に保ちながら蚕を飼育する「温暖育」が行われるようになった。

この飼育法は、多摩地方では明治23年に設立された羽村の成道社養蚕伝習所によって始められた。日野では明治30年頃から普及しはじめ、蚕室に火炉を設ける家が多く登場するようになった。一般的こうした火炉は、地上に粘土で築き上げ、座敷の板の間に開口部がある構造になっているが、土間を掘り下げて作る場合もある。

平成8年、日野宿で養蚕屋を営んでいた河野家の発掘が行われ、煉瓦で作られた2基の養蚕用火炉が調査された。これらは日野煉瓦を用いて作られており、明治24年頃の構築と推定され、かなり早い時期での導入と考えられる。地下を掘り下げた構造になっており、使われていた日野煉瓦は規格外のものや割れたものが多く、廃品を利用した可能性が高い。また、煉瓦の目地には粘土が使われ、内面全体にモルタルが塗られている。鉄道用以外でのモルタルの使用としては初期のものである。

このような煉瓦製の火炉は多摩地域では珍しいもので、養蚕技術の衰退と、多摩地域の近代化の足跡を辿る上での貴重な資料と言える。

なお、養蚕用火炉の使用法は次の通りであったという。

- ①火炉の底面に灰を敷き、その上に炭を敷きこみ、中央部を円筒状に積み上げる。
- ②炭の上に薪灰で作った薬灰をまんべんなく敷きつめる。
- ③燃え始めた炭は1～2日間はそのまま燃え続け、温度が下がると①②の作業を繰り返す。



▲河野家の養蚕用火炉の実測図(平面)

こうした日野煉瓦工場は、明治22年1月には甲武鉄道の建設工事を担当している鉄道局との間に、煉瓦の売買契約を結んでいる。

日野煉瓦の製造

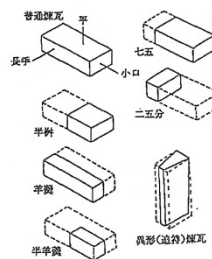
日野煉瓦は「手抜き成形」によって作られている。その工程は次の通りである。

- ①粘土を乾燥・粉砕し、水と砂を混入する。
- ②木製の型枠に粘土を叩き込み、余分な粘土を紐などで切り、叩き板で整え付ける。
- ③型枠を叩いて粘土を外す。この成形方法を、一般的に「手抜き成形」という。
- ④調整台にのせて表面を磨く。この時、一部の煉瓦には責任者の印(「日」「野」「二」など)を押す。
- ⑤天日で乾燥させる。
- ⑥窯の中に積み上げて焼く。
- ⑦煉瓦の規格や焼き上りを検査して出荷する。

日野煉瓦のゆくえ

日野煉瓦工場は明治23年8月30日に「廃業願」を提出した。

この間に約50万個の煉瓦が生産されたとき、その大半は多摩川鉄橋の橋脚や立川ー八王子間の陸橋や暗渠などの建設のため、鉄道局に納入された。また、廃業後の明治24年に熊川村(福生市)の日光橋掛け替えのために約5万個の在庫を出荷しているほか、日野宿内の小規模な建築物などにも日野煉瓦が使われている。



▲煉瓦の種類

『東京駅と赤煉瓦』1988東日本旅客鉄道株式会社より加筆転載

2

日野煉瓦以後

日野煉瓦工場の廃業後、中央線の八王子以西の建設工事に備えて、明治30年に八王子煉瓦製造会社が長沼に開業した。この会社には日野市域の有力者も出資しており、市内の建築物などにも同社の煉瓦が使われている例もある。

また昭和7年には救急土木事業の一つとして、甲州街道の拡幅が行われ、日野町には煉瓦の歩道が敷設された。この煉瓦は大坂煉瓦(かつての八王子煉瓦製造株式会社)で製造されたもので、滑り止めのため、両面に無数のくぼみがあり、会社印「大坂煉瓦」が見られる。当時の甲州街道は車道の白いコンクリートと歩道の赤煉瓦がみごとに対称をなして美しかったという。

むすびにかえて

甲武鉄道をはじめとする鉄道の建設は、明治政府の重要な国策の一つであった。幕末に新選組を生んだ日野の人々も、その明治政府が押し進める鉄道の建設に備えて、いち早く煉瓦を生産し、さらには自分たちの生活の中に煉瓦を採用していった。このような点に日野の人々の「先進性」と「柔軟性」を見ることができよう。大正の末年から、日野は他地域に先駆けて企業の誘致を行い、昭和10年代に入ると、いわゆる「日野五社」(日野自動車、東洋時計、六松社、富士電機、神崎電機)の進出を実現することになる。日野煉瓦を作った先人たちの先進性と柔軟性は、後代にも着実に受け継がれ、このような先駆的な事業として開花している。

今日も市内に残されている日野煉瓦は、そうした日野の人々の持つ特性を、もの静かに、我々に示している。私たちはそのような日野煉瓦を、先人たちから受け継いだ貴重な財産として、後代に伝えて行かねばならないであろう。

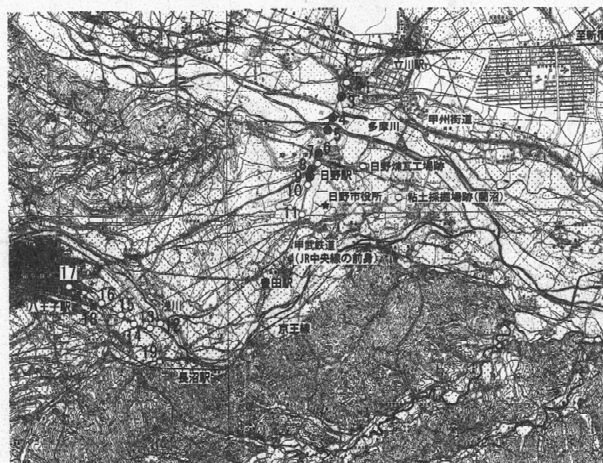
○主な参考文献

北村澄江「日野煉瓦について」『多摩のあゆみ』第70号 1993年
『日野市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅹ』1998 日野市教育委員会

日野煉瓦のあゆみ

年月日	項目と内容
明治5(1872)年 9月12日	新橋―横浜間の鉄道開業。
明治19(1886)年 11月10日 12月14日	甲武馬車鉄道会社、新宿―八王子間建設の免許が下りる。 同社、汽車鉄道に変更し再出願する。
明治20(1887)年 5月18日	私設鉄道条例公布。 ※この頃、日野市万願寺（蘭沼（いぬま）周辺）で採取した粘土の土質試験を行なう。 「土質試験候処良好之煉化用ニ相適シ就中其光沢如キハ最上品之品評ヲ得」 「煉化製造所新設認可願」を提出。 ―日野宿の土淵英（日野煉瓦工場の支配人）が神奈川県南多摩郡長へ。
明治21(1888)年 1月25日 1月下旬 2月20日 3月31日 7月1日 10月26日	「日野煉瓦工場申合規則」を作成。 ―日野宿下河原に工場を建設し、操業を開始する。 計画沿線の測量に着手（全長約40km）。～6月に完了。 甲武馬車鉄道会社発起人、鉄道敷設・甲武鉄道会社設立の免許を申請。 甲武鉄道の敷設許可願が認可される（工事期間―2年間）。 ―新宿―八王子間の蒸気鉄道会社（資本金90万円）として発足。 甲武鉄道の工事着手。 汽車による資材の運搬開始（走行距離計約77,000km）。～明治22年9月8日まで。
明治22(1889)年 1月23日 1月27日 2月12日 4月11日 5月13日 5月15日 7月頃 7月17日 8月11日 9月8日 9月23日 10月10日	土淵が津久井屋と煉瓦売買の打ち合わせを行なう。 「土淵英東京馬喰町火ノ見下津久井屋ワク井江煉化掛合ニ出京ス」 日野煉瓦工場、鉄道局と煉瓦売買の契約を締結。 「土淵英東京より帰宅、鉄道局江煉化売込約定ス」（『河野清助日記』） 日野煉瓦工場が窯の手直しを行なう。 「高木煉化窯築立不井二付川崎より五人職来リ取崩ス」 ―高木は日野煉瓦工場の監督員高木吉造のこと。 甲武鉄道、新宿―立川間の開業（1日4往復運転）。 山下堀の煉瓦造アーチコルベットの渡架を行なう。 「……裏煉化穴用水汲人夫ニ出ス」 ―河野清助（日野煉瓦工場の会計主任）家の裏（西側）を流れる用水に架かる甲武鉄道築堤内の暗渠。 煉瓦の焼成で燃料に松薪を使用している。「煉化焼松慎……」 多摩川―浅川鉄橋の完成。 日野煉瓦工場における煉瓦生産高約50万個。 「日野宿停車場輸出入荷物調査表 第三項輸出之荷物」より。 ―日野停車場設置の資料で、土淵から甲武鉄道会社社長へ提出。 甲武鉄道、立川―八王子間の開業（全線開通）。 「日野宿停車場設置之議ニ付再願」 ―停車場を設置するのは、豊田より日野が良好。 飯綱権現社の煉瓦造覆屋の工事に着手。「飯綱山煉化普請始め」 甲武鉄道へ日野停車場用地の提供と寄付（1,200円）を申し入れる。 ―土淵から甲武鉄道へ。
明治23(1890)年 1月6日 2月27日 7月29日 8月30日 9月27日	日野停車場の開設。 河野家が煉瓦造稲荷社を建立。「煉化造り稲荷社成功ス」 土淵英が逝去（31歳）。 日野煉瓦工場、廃業願を提出。 ―土淵の死亡により提出し、操業期間は2年半。 立川村が甲武鉄道架橋の修繕を負担しないことを決議。
明治24(1891)年 5～7月 夏頃から 9月20日 10月12日 10月13日 10月14日 10月26日	日光橋が日野煉瓦で架け換えられる。「日光橋煉瓦橋架換書類」 河野家が養蚕に「温暖育」を導入するため、建物の改築を始める。 天井に通気孔としての気抜を設ける。 「屋根中央江二間半気抜ヲ新調ス大工壱人」 煉瓦造の温暖炉2基を構築する。「温暖炉ニカ所コサエ」 温暖炉内面のモルタル塗り、成進社が蚕室の検査のため河野家を訪れる。 「左官半人コタツ温暖炉塗……成信（進）社副社長石川国太郎蚕室検査ニ来ル」 温暖炉の蓋を作る。「……温暖炉フタコサエ」 「大工壱人気抜戸コサエ」
明治26(1893)年 4月1日 6月19日 7月11日	南多摩郡が東京府へ移管。 日野宿が町制を施行。 高木吉造が逝去（39歳）。
明治30(1897)年 4月	八王子煉瓦製造株式会社が由井村に開業（長沼の煉瓦場）。 ―豊田の山口平太夫を最大の株主とする。
明治31(1898)年 4月	中央東線（八王子以西）の建設開始。 八王子駅が現在地に移転。
明治34(1901)年 2月22日	豊田駅の開設。

甲武鉄道（立川駅～八王子駅）の煉瓦構造物



1. 立川第一号橋（通称：山中環橋）跨線橋
2. 立川第二号橋（通称：山中環橋）跨線橋
3. 多摩川渡架橋（横川に架かる）
4. 多摩川本川橋梁
5. 日野下河原アーチコルベルト
6. 日野川橋梁（上堀に架かる）
7. 煉瓦出土地点（河野家）
8. 山下堀アーチコルベルト
9. 飯綱権現社（基礎部）
10. 旧日野駅
11. 豊田橋梁（多摩平橋梁）
12. 浅川橋梁
13. 新田川アーチコルベルト
14. 中田堀アーチコルベルト
15. 山田川アーチコルベルト
16. 石管堀川アーチコルベルト
17. 甲武鉄道八王子駅
18. 第2石管堀川橋梁（八王子煉瓦カ）
19. 八王子煉瓦製造場

● 現存
○ 遺存せず

4. 本時の指導（5・6／11時間）

（1）本時のねらい

日野煉瓦を使った橋脚を実際に観察し、自分の疑問について具体的に調べることができる。（技能）

（2）本時の展開

	学習活動	指導上の留意点・評価
つかむ	1、見学に行く際の注意事項をもう一度確認する。 2、多摩川の鉄橋に向かって、出発する。	・持ち物を確認し、自分が今日調べてくる内容をきちんと把握させる。 ・交通ルールを守って、安全に歩いていくことを心がける。
調べる	3、多摩川の鉄橋を実際に見たり、壁を触ってみたりする。 4、ゲストティーチャーの話を聞く。 5、ゲストティーチャーの話を聞いた後、質問に答えてもらう。	・煉瓦が積み上げて作られていることに注目させる。 ・煉瓦の色の違いにも気付かせる。 ・日野市教育委員会生涯学習課 清野 利明課長に、ゲストティーチャーをお願いし、どんな話をしていただきたいのかの打ち合わせをしておく。 ・あらかじめ子どもから出そうな質問を清野課長に送っておく。
まとめる	6、橋脚を実際に見たり、ゲストティーチャーの話を聞いたりして、分かったことなどをまとめる。 7、今日の感想を発表する。	・自分が今日調べてくる内容についてまとめることができたのか確認する。 ＜評価＞ 自分の疑問について具体的に調べることができる。（ノート観察） ・新たに出た疑問やまだ解決できていないことを把握する。

5. 成果と課題

（1）成果

- ・日野市の中に約130年もの間壊れずに使われ続けている鉄橋があり、しかもその煉瓦は自分たちの学校の近くで作られていることを知ることができた。
- ・日野煉瓦を作り、日野にも鉄道が通るようになったことで、日野市が発展していったことにも気が付けた。
- ・子どもたちの疑問をもとにして、調べ学習を進めていったので、児童の興味関心を引き付けられた。

（2）課題

- ・児童の疑問に基づいた資料を用意したが少々難し過ぎたので、子どもの実態に応じて作り直す必要があった。
- ・まとめたものを誰に対してどのように発表すればより効果的なのか、再考の余地がある。

（馬鳥 誠）

（５）豊かな自然「カワセミ」

（第３学年 道徳）

１．教材化の意図

（１）ねらいとする価値について

太古の昔から、人は自然と共生しながら生活をしてきた。しかし、近代に入り科学技術が発達するとともに、便利さを求めて目先の住みやすさや衣食住の豊かさを求めるあまりに自然破壊が始まり、動植物の乱獲が行われる等の環境破壊が進んでいった。現在は環境保全やエコ活動への意識が世界中で高まり、かつてのような人類にとっての身勝手な環境破壊は収まる一方で、失われた自然が人類の努力によって復元されたケースも多々ある。過去の反省を生かしながら自然と共生していこうとする態度を、これからの社会を生きていく児童には是非とも身に付けさせる必要がある。そのためには、身の回りに残されている自然の価値に気付かせることが、自然を大切にしようとする意識を高めさせることにつながると考え、そのような児童を育成することを目的として、ねらいとする価値を設定した。

（２）児童の実態について

東京都は都心でありながらも地域ごとに自然が残っており、多くの児童は日常生活を通して自然に親しんだ生活をしている。また、都内では地域ごとに「市の木」や「区の花」等も制定されている。しかし、身の回りにある自然は、地域の住民の努力の上に成り立っていることに気がついている児童は少ない。児童にとって身近な動植物を題材として取り上げ、身の回りの豊かな自然の良さに気付かせ、自分たち自身も身近な自然を大切にしようとする態度を育てたい。

（３）資料について

東京都日野市ではカワセミが「日野市の鳥」として制定(昭和 58 年 9 月 12 日)され、市民から親しまれている。戦前までは、カワセミはスズメやカラスと同じように都心部でも普通に見られる鳥であった。ところが戦後の経済復興とともに自然、特に川や池などの水辺環境が変化すると、それにつれて生息地も都心から郊外へと退行していった。日野市でも住宅開発が進んだ当初は護岸工事や生活雑排水によって川の水質を悪化させていった過去がある。しかし、「水辺に生態系を」というスローガンのもと、水辺の保全活動、コンクリート護岸を壊して素掘りの水路をよみがえらせる等の取り組みを実施してきた。その結果、1980 年頃に再びカワセミが見られるようになった。本資料の主人公であるぼくの心の動きを考えることを通して、児童の身の回りの自然を大切にしようとする態度を育てたい。

2. 指導計画 第3学年 道徳

(1) 主題 「豊かな自然」 3－(2) 環境保全 自然愛・動植物愛護 (郷土愛)

(2) 資料 「カワセミ」(重末 祐介 自作資料)

(3) 単元(本時)のねらい

- 自分の身の回りにある自然を大切にしようとする態度を育てる。

(4) 本時の展開

	○主な学習活動・学習内容	資料(・) 評価(○)
導 入	1. 資料への関心を高める。 ○最近、身の回りで見た花や動物、虫はありますか。 ・アジサイを見た。 ・川に水鳥がいた。 ・用水路に魚が泳いでいた。 ○これと同じものを見たことがありますか。	・カワセミがデザインに使われている写真
展 開	2. 資料「カワセミ」を読んで話し合う。 ○直人くんの話を聞いて、ぼくはどんな気持ちになったでしょうか。 ・カワセミを見てみたい。 ・どんな鳥なんだろう。 ○文夫おじさんの話を聞いて、ぼくはどんなことを考えたでしょうか。 ・本物のカワセミが見たい。 ・川がきれいになってよかった。 ・また川が汚れるとカワセミはいなくなってしまうのかな。 ◎枝の先を見つめながら、ぼくはどんなことを考えていたでしょうか。 ・こんなきれいな鳥を初めて見た。 ・見ることでよかった。 ・もう一度見たいな。 ・僕の住んでいる町にもカワセミに来てほしいな。 ・これからもカワセミがたくさん来るといいな。	・自作資料の配布 ・二人の会話の絵 ・文夫おじさんの解説の絵
	3. 自分とのかかわりから考える。 ○地域で自然を大切に活動にはどんな活動がありますか。	・カワセミを見ている絵 ○いつまでもカワセミが飛んでくるような水辺の環境を大切にしたいという、僕の思いをとらえている。 ・地域清掃と野鳥観察の写真

	・地域の清掃活動に参加したことがある。 ・公園を掃除している人たちを見たことがある。 ・巣箱をつける活動があった。	○自分たちにもできる活動があることに気づいている。
終 末	4. 教師の説話を聞く。	・川やカワセミを描いた児童・生徒のポスター

3. 資料

「カワセミ」

夏休みに、日野市に住んでいる、いとこの直人くんの家に遊びに行った。その日は天気のいいあつい日だったので、ぼくたちは市民プールに遊びに行くことにした。

市民プールに向かうとちゅう、僕はあるものに目がとまった。それはマンホールで、鳥の絵がえがかれていた。

「これ、何の鳥だろう？」とぼくがつぶやくと

「カワセミだよ。」と直人くんが教えてくれた。

「えっ直人くん、どうして知っているの？」とぼくがおどろくと、

「カワセミは『日野市の鳥』なんだ。マンホールだけでなく、橋のらんかんのもようや、日野市民カードにもカワセミがデザインされているんだ。」

「直人くんは本物を見たことがあるの？」

「いや、実はぼくも本物を見たことがないんだ。」

「へえ、そうなんだ……。」



話をしながら、ぼくはカワセミについてきょうみがわいてきた。

プールから帰ったあと、直人くんの家族と夕飯を食べている時、またカワセミが話題になった。すると、文夫おじさんが

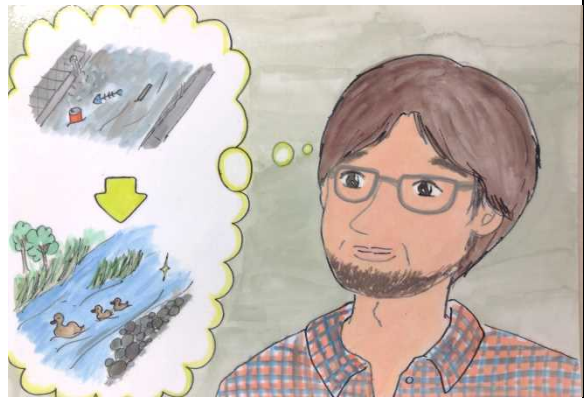
「カワセミは戦後のある時期から姿を消してしまったんだ。その頃の浅川の水は、生活用水が流されたり、川を大きくする工事をしたりしてカワセミが住みにくい川になってしまったんだ。」

でも、まちのみんなが『浅川の水をきれいにもどそう！』と呼びかけて、生活用水を流すのをやめたり、コンクリートの土手を自然の土手に作り直したんだ。そうしたら川にカワセミのエサも増えて巣を作る場所も増えたから、カワセミをまた見かけるようになったんだよ。」

ぼくは文夫おじさんの話を聞いて、本物のカワセミを見たくなった。すると直人くんが

「明日、カワセミを探しに行こうか。早朝から探せば見つけられるかもしれない！」

「さんせい！ぜったいに見つけようね！」直人くんの提案にぼくは大よろこびした。



翌朝、ぼくと直人くんと文夫おじさんの三人は、カワセミを探すために川ぞいを歩いた。浅川では魚や水鳥を見かけることができたが、かんじんのカワセミはなかなかみつからなかった。

「もうダメかなあ」とあきらめかけた時、

「あっ、あそこにいる！」と、文夫おじさんが川向かいの方を指差しながらつぶやいた。

「えっ、どこどこ？」

ぼくと直人くんはおじさんが指差している方向を見ながら、カワセミを探した。すると川辺の木の枝の先に、ちょこんととまっている青緑色の小さな鳥の姿が見えた。

(あれがカワセミかあ……。)

ぼくたちは息をするのをわすれるほど、じっとカワセミを見つめ続けた。そのあざやかな青緑色の羽はかがやいて見えた。確かに「鳥の宝石」といわれるほど美しい姿をしていた。

やがてカワセミは、飛び去って見えなくなった。

「きれいな鳥だったね。」と直人くんがつぶやいた。

「うん。本当にきれいな鳥だったね。」とぼくは返事をした。

(もっとカワセミが見られる浅川になればいいなあ……。)と思いながらさっきまでカワセミがとまっていた枝の先を見つめ続けた。



4. 児童の感想より

- ・昔はカワセミが住む場所がなかったことを初めて知りました。
- ・カワセミが「日野市の鳥」でうれしいです。これからも大切にしたいです。
- ・日野市の人たちのがんばりがすごいと思いました。
- ・カワセミがずっといる日野市でいてほしいです。
- ・カワセミを呼び戻そうとした昔の人たちはすごいと思いました。
- ・カワセミはまだ一回しか見たことがないから、もっと見てみたいです。
- ・ごみを拾ったりしてカワセミが安心して住めるまちにしたいです。
- ・わたしたちができることは何でもやりたいです。
- ・まちをきれいにして、鳥や魚や虫たちが住めるまちにしたいです。

5. 成果と課題

(1) 成果

- カワセミに対して、「日野市の鳥」としての親しみをもたせることができた。
- 読み物資料から、地域の人たちが身近な自然を大切にしてきた経緯を知ることができた。
- 身近な地域の自然を大切にしていこうとする態度を養うことができた。
- 日野市内の全ての小学校で指導できる教材を開発することができた。
- 日野市立図書館の協力があって、教材開発・作成ができた。

(2) 課題

- ▲カワセミを題材にした、低・高学年向けの教材の開発。または、「日野市の花」(菊)、「日野市の木」(かし)を題材にした教材の開発。
 - ▲地域の清掃ボランティアに参加している人や、保護者の考えを知る機会を盛り込むと、より身近な自然を大切にしようとする気持ち・態度を高めることができると考えられる。
 - ▲児童自身が主体的に行動を起こすきっかけとなる教育活動の工夫。
- ⇒4年生の三沢中学校との連携授業「クリーン作戦」と関連をもたせる。
- ⇒野鳥を観察する学習と関連をもたせる等。

6. 授業風景・板書



参考資料

- | | | |
|---------------------|-----------|--------|
| ・帰ってきたカワセミ都心での子育て | 矢野 亮 地人書館 | 1996 年 |
| ・みんなの浅川 豊かな川を目指して | 浅川生きもの研究会 | 2000 年 |
| ・第 11 回全国水の郷サミット報告書 | 日野市・国土交通省 | 2005 年 |

（６）「探ろう田んぼのパワー」～豊田という地名から地域の特徴をつかむ～

（第５学年 総合的な学習の時間）

１ 教材化の意図

地名には、地域の様々な歴史や地形・風土の特長などが込められていることがある。日野第二小学校がある豊田地域もその一つである。豊田は、その名の通り昔から豊富な湧水や浅川からの取水で稲作が盛んな地域であった。現在は宅地化や区画整理が進み、豊田の景観は大きく変わりつつあるが、地域を歩いてみると今もなおその名残を感じさせてくれる。

学校の前には、豊田用水があり、稲作には欠かせない豊かな水が流れている。また、正門前には「耕地整理記念之碑」が建っている。これは明治時代に豊田、川辺堀之内の有志が水田の区画整理を行い、そのおかげで農作業が効率的に行えるようになったため、当時の人たちの努力を称え建てられたものである。

ほかにも石神の一種である「おしゃもじさま」がある。これは、風邪や百日咳にかかると、お供えしてあるおしゃもじを借りてきて病人に飯をよそったり、喉をなでたりすることで病気が治るとされていた。

これらのことから、当時の豊田の人たちにとってお米は、必要不可欠であり生活に強く結びついてきたことが想像される。

本校では、平成５年に地域の方々の宿願であった３回目の校地拡張が実現して、校庭南側に第二校庭ができた。この土地を利用して以前から豊田の地域の特徴を生かし、子供たちに豊かな豊田の自然の恵みを味わわせようと５年生で「米作り」に取り組んでいる。また、地域の方々と一体になって収穫を祝い、味わう活動も続けている。

今回は、豊田という地名に着目し、地域の特徴を子供たちに考えさせる。そして、自分たちの住んでいる地域を実際に歩くことで考えたことを確かなものにしたり、新たな課題をもたせたりすることにもつなげていく。また、実際に米作りを体験することで、田んぼやお米の魅力、そして米作りに関わる人たちの思いにも気付かせる。さらに、収穫後の稲をどのように活用してきたかについて調べ、実際に自分たちで作るという活動を加え、昔の人たちの思いにも気付かせる。

地域の方々との関わりをもちながら、地域の特徴を生かした学習活動を行うことで、日野の「よさ」「特色」に気付かせるとともに、郷土に誇りと愛着をもった「ひのっ子」の育成を図る。



区画整理中の「豊田用水」



現在も残る川辺堀之内の田んぼ

2 指導計画

第5学年 総合的な学習の時間「探ろう田んぼのパワー」

(1) 単元のねらい

- ◎稲作における農家の取り組みや苦勞を知る。
- ◎米作りを通して、米や稲に関わることについて課題をもち、調べ表現していくことでお米や田んぼから生育された稲の価値に気付く。
- ◎地域の方の協力を得ながら、自分たちの地域の歴史や自然を学ぶと共に稲作の作業を通して、地域への愛着や自然環境を守ろうとする気持ちを育む。

(2) 単元の指導計画（全38時間）

	ねらい	主な学習活動・学習内容	資料等（・）評価（○）
つかむ ⑤	◎豊田の人たちが米作りを大切にしてきたことに気づき、米や米作りに関心をもつ。 ◎1年間の活動の振り返りをもつ。	・お米に関係することは何かと考え、意見を出し合う。 ・「豊田」という地名や航空写真から昔はどのような地域だったのかを考え調べる。 ・耕地整理記念碑の碑文を読み、気付いたことを話し合う。 ・どうして米作りが盛んだったのか、そのわけを探る。 ・社会科の教科書や資料等を活用しながら、年間の学習内容について学ぶ。	○米や米作りに関心をもっている。 ・たまたび81号の写真（7ページ） ・昭和63年の学校南側の写真 ・昭和44年の豊田の航空写真 ・資料「豊田の地名」 ○以前は豊かな水田地帯であったことに気付くことができている。 ○米作りが盛んな理由を意欲的に考えたり調べたりしている。 ・社会科資料集
追究する ⑥	◎田起こしをする。	・種もみの観察 ・種もみから苗を作る。（水やり） ・苗の生長の観察をする。 ・田起こし、代掻きをする。 ・JAの方から田植えの方法についてのお話をいただき、田植えの仕方について学ぶ。 ・田植えをする。 ・稲の高さに着目して生長を観察する。 ・水の管理を行う。	○種もみや苗の観察、苗の水やりなど意欲的に取り組んでいる。 ○JAの方の話を関心をもって聞くことができている。

追究する	◎より多くの収穫をするための方法を考え、試してみる。 ◎収穫をする。 ◎お米や収穫後の稲などの活用の仕方について考える。 ◎収穫した米を使ってもちつきをする。	・お米を外敵（虫、病気、台風、鳥、栄養、温度、水）から守るにはどうしたらよいかを考え、インターネットや書物などを活用して調べる。 ・案山子のデザインを考える。 ・案山子を作る。 ・稲刈り、乾燥、脱穀、もみすり、精米をする。 ・お米や収穫後の稲などの活用の仕方について調べる。 もみがら・・・お手玉 ぬか・・・ぬかづけ ぬか袋 わら・・・納豆 ほうき 白米・・・米飯 お酒など ・活用したい物の作り方を調べ、実際に作る。（納豆、お手玉、ほうき、わら人形） ・もちつきを行う。 ・もちをつく意味について考えさせる。	○外敵から守る方法は何か進んで調べ、試している。 ○収穫を喜び、意欲的に作業に取り組んでいる。 ○身の回りでお米が活用されているものや収穫後の稲などから作られているものを意欲的に調べている。 ○稲は捨てる場所がないことに気付いている。 ○自分で活用したいものを考え、意欲的に作り方を調べたり作ったりしている。 ○お世話になった方たちへ感謝の気持ちを持ち、その気持ちを伝えようとしている。
まとめる ⑦	◎お米と人とのかわりについて考える。	・体験したことや調べたことから「田んぼのパワーとは何か」自分が考えたことをまとめる。 ・新聞などにまとめて、お世話になった地域の方を招いて発表会を行う。	○お米や稲が自分たちの生活と結びついていると考えている。

3 資料

(1) 豊田地域の航空写真と豊田の耕地整理



豊田地域の航空写真（昭和44年）



日野第二小学校前の田んぼ（昭和63年）

明治43（1910）年7月、日野町豊田では耕地整理事業が始まりました。耕地整理というのは、凸凹な土地を平らにし、バラバラになっている土地を交換してまとめ、用水路などをまっすぐにして使いやすくすることです。当時、浅川にそった豊田の田んぼは、凸凹が多く、低い所にある田んぼはいつも水がたまっていました。このような田んぼでは、水の多い時はひざまで水につかって、田植えや草むしりなどをしなくてははいけないし、稲の成長もよくなかったのです。その上、1つ1つの田んぼが小さく、形や大きさが決まっていませんでした。田んぼへ行く畦道も曲りくねっていて、肥料やとれた作物は、人が背中にのせて運ばなくてははいけないので大変でした。また、用水も曲っていて、低い所はたくさん水が入るので、取り入れ口では水は多いのですが、下流にいくと水不足の田んぼが出てしまいます。

そこで、明治42（1909）年7月、大地主の山口さんたちが話し合っ、耕地整理のやり方を聞いたり、実際に行った地域を見に行ったりしました。そして、専門家に土地の測量や計画を立ててもらいました。その結果、68人の地主が賛成し、組合をつくって、工事を始めることにしたのです。工事のお金は、銀行から借りることにしましたが、手続きが大変でした。また、夏には米、冬は麦を作っていましたが、工事の間、冬は作物をつくることができなくなり、代わりの土地をさがしました。7月から9月にかけて雨がよくふり、浅川の堤防が約1100mも切



耕地整理記念の碑

れてしまいました。そこで、組合長は、農家の人を集め、全員が参加して耕地整理の工事をしようとし、役員も先頭に立って働いたので、明治44（1911）年5月には一応できましたが、最終的には大正2（1913）年3月に完成しました。

この結果、曲がりくねっていた用水は、まっすぐ流れるようになり、稲が成長するのに、ちょうどよい量の水が田に入るようになりました。また、あちこちに分かれていた田がまとめられたので働く時間が節約されました。道もまっすぐで、肥料や作物を運ぶのにも便利になりました。これを記念して、大正4（1915）年4月、耕地整理記念の石碑が作られました。